

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

107

先日、SLぐんまみなかみに乗車した。JRの駅でポスターを見かけて、実際に動く蒸気機関車に乗ったことはなかった。インターネットで指定席を予約した。

当日、新前橋駅から乗り込み、昔懐かしいボックスシートに腰掛けてガタンゴトンと揺られながら車窓の外をみると、沿線には手を振る人たちが見える。大きなカメラを構えた「撮り鉄」の方々もSLを待ち構えている。

SLぐんまみなかみ

沿線は産業構造の縮図

だ。遠足気分になって車内販売でビールとおつまみを購入し、途中駅での歓迎イベントも楽しみながら、のんびり約2時間かけて水上

駅へ到着した。帰路もSLに乗って帰った。車窓から外を眺めながら、利根川沿いの景色は群馬県の産業構造や歴史を知ることができると感じた。上流には川下りのラフティング、温泉など観光スポットがあるほか、水力発電所も見ることができ、傾斜が緩やかにな

る中流からは田畑が増え、材木置き場も見える。

川が農業用水だけでなく、古くは材木の運搬にも利用されていたこと思い出す。利根川と吾妻川の合流地点である渋川市からは、な

分かる。広い河川敷には、野球場やサッカーグラウンドで遊ぶ人たちの姿も見える。川は県民の身近なレクリエーションの場でもある。

後日、JRの方に聞いたところ、一度引退した後に復活させた車両で、今はSLや気動車などを専門に扱う整備士が日々メンテナンスを行っているそう

り、工場や倉庫のほか、商業施設や住宅が立ち

ゆったり走るSLだからこそ、群馬県各産業が、川に沿いながらそれぞれに適した地で発展してきたことを

だ。通常の電車とは構造も部品も全く違うので、SLの部品の出す音を頼りに不具合を探したり、入手困難な交換部品は自作す

並ぶようになる。

じっくり観察できたと

裏側に、プロフ

工業用水や水力で発電した電気を使う製造業が川に沿って発達

思っ。ちなみに、私が乗ったD51(デゴイチ)498は、1940年

製造の82歳。今でも現役として活躍している。役として活躍しているのは驚きだ。

の暮らしを支える商業も盛んになったことが

改めて感謝したい。ありがとございませ

た。



肥後秀明(ひご・ひであき) 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局審査企画課長兼上席審査役、金融機構局審査運営課長兼上席審査役などを経て2022年4月から現職。

私もついうれしくて沿線の人たちに手を振ってしまふ。普段の電車には無い非日常感